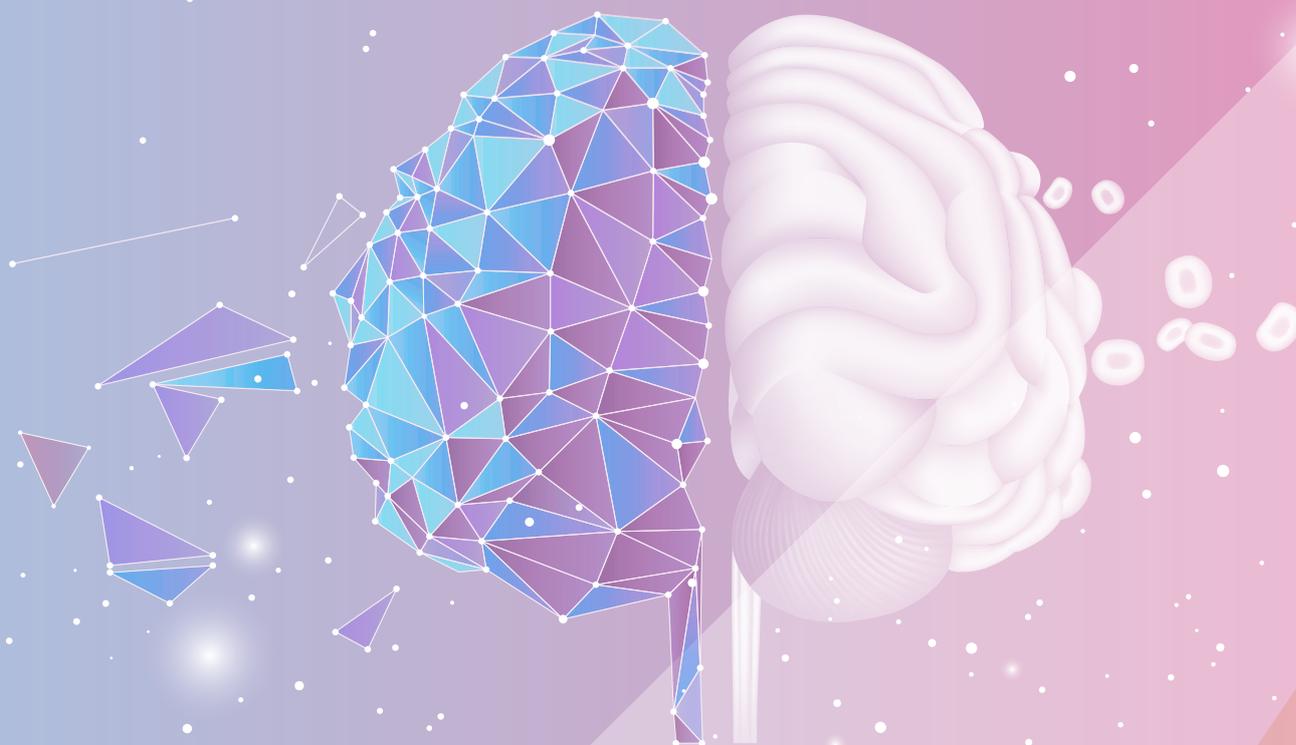


世界脳週間 2024 報告書

将来を担う若者を主な対象として
脳科学の重要性を啓発する日本における
活動の報告



主催	特定非営利活動法人脳の世紀推進会議
共催	国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター 公益財団法人ブレインサイエンス振興財団 ムーンショット目標2 研究開発プロジェクト 「臓器連関の包括的理解に基づく認知症関連疾患の克服に向けて」
協力	日本神経科学学会 日本神経化学会 日本神経回路学会
支援	脳の世紀推進会議賛助会員 (株)成茂科学器械研究所 / (株)日立製作所 中央研究所 エーザイ (株)メディスン開発センター / (株)NTTデータ経営研究所 サントリーウエルネス (株)生命科学研究所 / ショーシンEM (株) 日清食品ホールディングス (株)



世界脳週間 2024

Contents

世界脳週間 2024 企画の経緯及び開催趣旨	P 2
我が国における実施期間及び全国開催イベント一覧	P 3

各地でのイベント報告

01 世界脳週間 2024 京都イベント	P 6
02 世界脳週間 2024 せいりけん市民講座	P 8
03 世界脳週間 2024 広島大学イベント	P10
04 世界脳週間 2024 国立精神・神経医療研究センターイベント	P12
05 世界脳週間 2024 理化学研究所 夏休み高校生理科教室	P14
06 世界脳週間 2024 名古屋市立大学 オープンカレッジ	P16
07 世界脳週間 2024 玉川大学 中高生脳科学教室	P18
08 世界脳週間 2024 学芸大学附属高等学校 特別授業特別事業	P20
09 世界脳週間 2024 東京科学大学講演会	P22
10 世界脳週間 2024 奈良女子大学 SSHサイエンス先端講座 II	P24
11 世界脳週間 2024 東北大学 サイエンスカフェ・合同研究室ツアー	P26
12 世界脳週間 2024 新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」	P28
結び「世界脳週間 2024 を終えて」	P30

世界脳週間 2024 企画の経緯及び開催趣旨

脳科学は今世紀最重要研究領域の一つであり、また認知症を初めとする精神・神経疾患の新たな診断・治療法の開発、さらにはロボットや人工知能など社会に強いインパクトを与える科学技術イノベーションのためにも極めて重要なサイエンスです。

この現代社会における脳科学の重要性は国際的にも広く認識され、将来を担う若者を主な対象として公開講演会、病院や研究所の公開、体験学習などの行事を展開する「脳週間」イベントが 1992 年に米国で開始されました。それに呼応して、1997 年から欧州においても「脳週間」イベントが実施され、2000 年からは国際脳研究機構やユネスコの後援を受け、「世界脳週間」と銘打ったグローバルな行事になりました。

わが国もこの「世界脳週間」活動の意義に賛同し、NPO「脳の世紀推進会議」が主体となり、知識欲旺盛な高校生を主な対象として 2000 年より参画しています。そのため、毎年、わが国の脳研究の中心的研究センターである国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センターを含め全国 9～18 か所で講演会、研究室の公開、体験学習会などのイベントを行ってきました。2000 年からコロナ禍が遷延し中止せざるをえない地区がありましたが、このような困難な状況でも開催した地区では高校生を含め多くの参加を得、活発な質疑応答もあり、成功裡に行うことができました。2023 度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したとはいえ、未だ完全には終息せず依然として困難な状況でしたが、2022 年度の成功体験を基に 9 か所で開催いたしました。2024 年度は少しずつ開催地区も増えて、日本全国 12 か所で開催いたしました。本報告書はこの開催地区における世界脳週間 2024 イベントの報告を纏めたものであります。

我が国における実施期間及び全国開催イベント一覧

【実施期間】

世界脳週間は米国では2023年は3月13日(月)から19日(日)までとし、この週に種々行事を展開したが、我が国では主な対象である高校生の都合に合わせて実施期間を柔軟に設定している。

【開催イベント一覧（開催日順）】

01 世界脳週間2024 京都イベント

開催日：2024年7月20日(土) 14:30~17:00

会場：東山高等学校（京都市左京区永観堂 51）

主催：京都神経科学グループ

02 世界脳週間2024 せいりけん市民講座

開催日：2024年7月20日(土) 13:00~15:30

会場：岡崎コンファレンスセンター 大隅ホール（岡崎市明大寺町字伝馬 8-1）

主催：生理学研究所・岡崎市保健所

03 世界脳週間2024 広島大学イベント

開催日：2024年7月27日(土) 13:00~16:00

会場：広島大学医学部 第5講義室（広島市南区霞 1-2-3）

主催：広島大学 神経科学研究会

04 世界脳週間2024 国立精神・神経医療研究センターイベント

開催日：2024年8月3日(土) 13:00~17:30

会場：国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール
（小平市小川東町 4-1-1）

主催：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

05 世界脳週間2024 理化学研究所 夏休み高校生理科教室

開催日：2024年8月9日(金) 13:00~16:00

会場：理化学研究所 脳神経科学研究センター（和光市広沢 2-1）

主催：理化学研究所 脳神経科学研究センター

06 世界脳週間 2024 名古屋市立大学 オープンカレッジ 「脳とこころのサイエンス」

開催日：2024年11月1日～12月20日（全8回）

会場：名古屋市立大学（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）

主催：名古屋市立大学医学研究科

07 世界脳週間 2024 玉川大学 中高生脳科学教室

開催日：2024年11月17日(日) 9:00～13:00

会場：玉川大学 Human Brain Science Hall（町田市玉川学園6-1-1）
《 ハイブリッド開催 》

主催：玉川大学 脳科学研究所

08 世界脳週間 2024 学芸大学附属高等学校 世界脳週間 特別授業特別事業

開催日：2024年11月20日(水) 13:40～14:30

会場：学芸大学附属高等学校（世田谷区下馬4-1-5）

主催：公益財団法人東京都医学総合研究所

09 世界脳週間 2024 東京科学大学講演会

開催日：2025年1月25日(土) 16:00～18:30

会場：オンライン開催（Zoom）

主催：東京科学大学 脳統合機能研究センター／お茶の水ニューロサイエンス協会

10 世界脳週間 2024 奈良女子大学 SSHサイエンス先端講座Ⅱ

開催日：2025年3月8日(土) 13:30～16:00

会場：奈良女子大学附属中等挙育学校 多目的ホール（奈良市東紀寺町1-60-1）

主催：奈良女子大学附属中等挙育学校

11 世界脳週間 2024 東北大学 サイエンスカフェ・合同研究室ツアー

開催日：2025年3月20日(木) 13:00～15:30

会場：東北大学 片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟
（仙台市青葉区片平2-1-1）

主催：東北大学大学院生命科学研究科

12 世界脳週間 2024 新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」

開催日：2025年3月26日(水) 13:30～17:00

会場：新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 中田記念ホール 他
（新潟市中央区旭町通1-757）

主催：新潟大学脳研究所

各地でのイベント報告

01 世界脳週間 2024 京都イベント

【開催イベント情報】

テーマ ようこそ脳科学の最先端へ：味わいのサイエンスとその医学的展開
日時 2024年7月20日(土) 14:30~17:00
会場 東山高等学校（京都市左京区永観堂 51）
主催 京都神経科学グループ
代表者 河田 光博（京都岡本記念病院 教育センター／京都府立医科大学 名誉教授）

【開催趣旨】

ものを探求することは、脳を自由に使い、新たな発見の喜びを知ることにはかならず、世界中の高校生は、私たちと同じように脳について考え、知識を深めようとしている。世界の潮流に遅れることなく、視野を広く持って学びの精神を高めるため、この講演会を通して、「脳が脳について考える」、そんな時間を皆で共有し、新たな自分を見つけることができる。脳科学はさまざまな分野と共通項を持っている、新しい学問である。

【プログラム】

- 14:30 東山高校生による水澤先生の紹介
開会挨拶 水澤 英洋 先生
- 14:35 東山高校生による樽野先生の紹介（日本語と英語）
ご講演 樽野 陽幸 先生（約60分）（日本語と英語）
- 15:35 質疑応答（約15分）
- 15:50 河田先生の紹介（英語と日本語）
- 15:55 閉会挨拶 河田 光博 先生
- 16:00 終了
- 16:15 写真撮影
- 16:20~自由討議



【開催周知方法】

ポスターを関係機関に配布、開催を京都、大阪、兵庫の高校にメールで通知

【参加者数】

71名 内訳 東山高校生 61名（2年生3名、1年生58名）、
他校 10名（洛星高校 2年生7名、京都女子高校 2年生1名、1年生2名）、
教員他 10名

【 イベントの概要 】

講演者樽野教授が医学部に入学して、なぜ基礎医学研究に進もうとしたのか、とくに教科書に書かれている内容を新たに自分が書き換えたいという願望がうまれた背景を説明された。とくに感覚情報のメカニズムの中で、味覚だけが研究が遅れており、新たなチャレンジ精神(クールな研究がしたい)が芽生え、その結果、古い教科書に書かれている部分が事実と異なっていたのはなぜか、また新たな自分自身の発見によって正しくその内容が書き改められるようになったストーリーを分かりやすく説明された。味覚のサイエンスを通じてチャンネルシナプスという新たな概念、言葉を生み出した実験内容を最新脳科学的手法も踏まえて提示され、食文化や人類を取り巻く環境の進化、さらには塩味受容の発達経過から、高血圧疾患に対する医学的展開にまで話が及んだ。

【 参加者の反応 】

講演直後の質疑応答において、多数の生徒(東山高校、洛星高校、京都女子高校)から、味覚の分子機構から味覚の障害にまで、素直な疑問を物おじせず質問し、それに真摯に樽野教授は答えていた。また講演会が終了後も有志が残り、40分ほど自由な質疑応答の続編ともいべきセッションが繰り広げられた。高校生にとっては味覚受容という内容は教科書にも載っておらず、シナプス伝達機構の基本的な知識も合わせて、研究の面白さが伝わったようであった。

【 開催者の総括 】

若々しい樽野教授の、クールな研究態度、発表のスマートさ、歴史的事実から最新の先端的技術を用いた味覚受容のメカニズムについて、何が分かっている、何が分かっているのか、その探求を進めるサイエンスの醍醐味が高校生に伝わった様子であった。司会進行も日本語と英語ですすめられ、講演自体も最初は日本語、つぎに英語での発表という、まさに世界を見据えた今回の講演会であった。冒頭に水澤理事長が脳の特殊性、脳は他の臓器と同じように移植できるのか、という疑問を提示され、高校生は「考える」とはどういうことか、考える時間が持てたようであった。



02 世界脳週間 2024 せいりけん市民講座

【開催イベント情報】

テーマ 体は電気で動いてる?! ～運動をコントロールする脳のしくみ～
日時 2024年7月20日(土) 13:00～15:30
会場 岡崎コンファレンスセンター 大隅ホール (岡崎市明大寺町字伝馬 8-1)
主催 生理学研究所/岡崎市保健所
代表者 西尾 亜希子 (生理学研究所 研究力強化推進室(広報))
後援 総合研究大学院大学

【開催趣旨】

脳は、人間にとって非常に重要で自分の体の一部であるにも関わらず、普段は気にせず、直接見ることもなかなか無いため、脳や生理学について学ぶ機会は多くない。そこで一般の方々に生理学や脳のしくみを身近に感じてもらうため、毎年7月頃に、岡崎市保健所や近隣の高校と連携し、市民向け講座を行っている。今年度は、「体験」できる講演をテーマとし、講演に体験を盛り込んで、より積極的な学びの機会を提供した。

【プログラム】

■講演

13:00～14:00

タイトル：体は電気で動いてる?!

～運動をコントロールする脳のしくみ～

講演者：知見 聡美 先生

(生理学研究所 多階層生理機能解析室 助教)

■ワークショップ開催

14:00～15:30

- ・岡崎高校・岡崎北高校の生徒さんたちによるワークショップ
- ・生理学研究所と大学院生(総合研究大学院大学)によるブース展示



【開催周知方法】

近隣校へのチラシ配布・市政だより掲載・新聞掲載・HP/SNS 掲載・ポスター掲示

【参加者数】

195名

【 イベントの概要 】

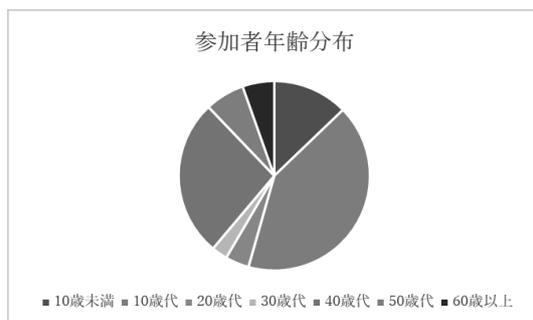
生理学研究所の知見助教が講演を行い、参加者が体験できるデモ(筋電の表示、ダーツとプリズム眼鏡を用いた運動学習のデモ)を講演に盛り込んだ。また、講演中に体験できる人数が限られるため、講演後にブース展示も行った。講演後には、他にも高校生による科学工作ワークショップや、生理学研究所と国立天文台の大学院生(総合研究大学院大学)によるブース展示を行い、参加者の幅広い科学的興味に応えた。

【 参加者の反応 】

参加者のうち、約8割からアンケートの回答を得た。アンケート回答者のうち、参加者の年齢層は、50%以上が10歳代以下という若年層であり、次いで多いのが40歳代であった。また満足度に関する回答では、講演については約85%が「大変良い」「良い」と回答しており、ワークショップやブース展示は95%が「大変良い」「良い」と回答していたことから、大変満足度の高いイベントであったといえる。

【 開催者の総括 】

講演に体験を盛り込んだこと、また講演中に行ったデモと同じ体験が講演後も可能であったことは、参加者から非常に好評であった。毎年非常に人気の市民講座であるが、アンケートを見ても今年は一段と満足度が高かったことが分かる。ほとんどの参加者が、講演後のワークショップとブース展示にも参加したことは大変嬉しいことだが、反面、待ち時間が長く行列が出来てしまった点は今後の検討課題である。



03 世界脳週間 2024 広島大学イベント

【 開催イベント情報 】

テーマ	脳と心の科学はおもしろい！
日時	2024年7月27日(土) 13:00~16:00
会場	広島大学医学部 第5講義室 (広島市南区霞 1-2-3)
主催	広島大学 神経科学研究会
代表者	酒井 規雄 (広島大学大学院医系科学研究科)
後援	広島大学 エクステンションセンター／広島大学医学部

【 開催趣旨 】

21世紀は「脳と心の時代」といわれており、脳科学の重要性は世界共通の認識となっています。公開講座では、これからの脳科学を担う若者やその教育に携わっておられる教師の方々に、最新の知識に触れていただき、脳科学の面白さを体験していただけることを期待しております。

【 プログラム 】

13:00~13:05	「はじめに」 酒井 規雄 先生 (広島大学大学院医系科学研究科 神経薬理 教授)
13:05~13:45	講演1 「痛み研究の最前線 -Pain, Pain, Go Away !!-」 中村 庸輝 先生 (広島大学大学院医系科学研究科 薬効解析科学 助教)
13:45~13:55	休憩 (質問記入・会場のみ)
13:55~14:35	講演2 「痛みについてわかっていること」 吉野 敦雄 先生 (広島大学 保健管理センター 准教授)
14:35~14:45	休憩 (質問記入・回収)
14:45~15:25	講演3 「脳とこころと痛みと麻酔 ~体が痛いの？心が痛いの？~」 中村 隆治 先生 (広島大学病院 麻酔科 講師)
15:25~15:35	休憩 (質問記入・回収)
15:35~15:55	質疑応答 (酒井先生司会)
15:55~16:00	終わりの挨拶 アンケート記入

【 開催周知方法 】

広島大学医学部高大連携講座『先端医療は今—広島から世界へ 2024』の一環として開催。広島大学のエクステンションセンターから、県内の高校に周知し、参加希望者・参加高校を募る。

【 参加者数 】

対面 : 86名 オンライン : 13名 合計 99名

【 イベントの概要 】

今年も広島大学医学部の高大連携公開講座の一環として共催で行った。コロナは終息したが、今年もオンサイトとオンラインのハイブリッドでの開催とした。ほとんどが、オンサイトでの参加であった。昨年の参加者が 72 名であったので、今年は増加した。例年通り、医学部を主体として脳科学の研究・臨床に携わる研究者・医師 3 名から講演をしていただいた。今年は「痛み」をテーマに 3 名の講師の方に講演をしていただいた。一人目は、新しい鎮痛薬の創薬や動物実験の話題で講演して頂いた。2人目は、精神科医から痛みとことろについての話題、3人目は疼痛緩和に携わっている麻酔科医から痛みの治療と麻酔の話題をして頂いた。講演後に参加者から質問用紙に記載してもらった質問を基に質疑応答を行った。

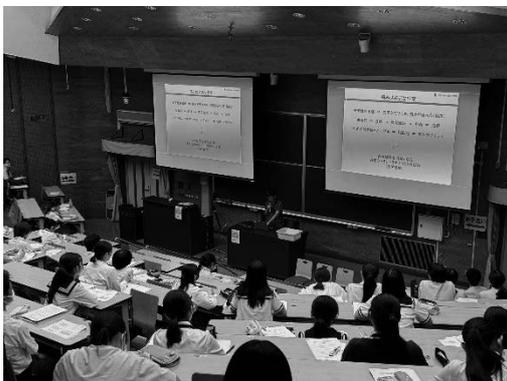
【 参加者の反応 】

普段聞くことが出来ない内容の話を聞くことが出来たことを、高校生はまずは喜んでいた。内容的にやや難しいところもあったが、講演者になるべくわかりやすく説明していたことを感謝していた。「痛み」に関する話を 3 つの異なった側面から話が聞けたことを有意義に感じていた。

【 開催者の総括 】

毎年「脳とこころの科学はおもしろい」とのタイトルで講演会を行っている。講演は 3 題で、講演の後にあらかじめ提出してもらった質問から、質疑応答を行っている。昨年、一昨年と講演会全体のテーマを設定して行った。毎回、テーマを設定できるかどうかは、今後不明であるが、テーマを設定した方が講演会として、よくまとまる様に思われる。

毎年、参加人数の多い少ないはあるが、広島大学の行事の一環としても実施しているので、多くの高校生に聴講していただけるのがありがたい。



04 世界脳週間 2024

国立精神・神経医療研究センターイベント

【開催イベント情報】

日時 2024年8月3日(土) 13:00~17:30
会場 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟 ユニバーサルホール
(小平市小川東町 4-1-1)
主催 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
代表者 中込 和幸 (国立精神・神経医療研究センター 理事長)

【開催趣旨】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に訴える世界的キャンペーンで、我が国もこの意義に賛同し、2000年より「脳の世紀推進会議」が主体となって高校生を対象として、最先端の脳科学研究を紹介するイベントを開催している。開催日時は、高校生が参加しやすい夏休み期間で、関東近郊の他機関が開催する関連行事との重複がない8月3日とした。

【プログラム】

13:00~13:10 開会のご挨拶 (Zoom) 岩坪 威 先生 (神経研究所 所長)
13:10~14:10 講演
「アディクション研究の最前線：やめたくてもやめられない脳のメカニズム」
池田 和隆 先生 (精神保健研究所 精神薬理研究部 部長)
「神経イメージングの進歩：脳疾患と闘うための先駆的戦略」
小山 隆太 先生 (神経研究所 疾病研究第二部 部長)
14:10~14:20 休憩
14:20~14:25 ラボ体験ツアーの説明
14:25~16:30 ラボ体験ツアー・閉会のご挨拶 村松 里衣子 先生 (神経薬理研究部 部長)
《ラボツアー担当部署》

- ・ヒト固有の行動原理を支える脳回路の理解 (IBIC 先進脳画像研究部)
- ・脳神経系の発生・発達と疾患 (神経研究所 病態生化学研究部)
- ・大学院生が語る脳細胞活動の神秘 (神経研究所 モデル動物開発研究部)
- ・脳は若返える！？ (神経研究所 神経薬理研究部)
- ・希少疾患の原因解明 ～世界にたった一人の患者さんのために～ (神経研究所 疾病研究第一部)
- ・のぞいてみよう！幹細胞研究の最前線 (神経研究所 遺伝子疾患治療研究部)
- ・iPS細胞技術を活用した神経・筋疾患の研究 (神経研究所 疾病研究第五部)
- ・アルツハイマー病を観る、創る、治す (神経研究所 疾病研究第四部)

16:30~17:30 アンケート



【 開催周知方法 】

NCNP ホームページ、Twitter、脳の世紀推進会議 ホームページ

首都圏 SSH 高校および参加実績のある高校へチラシおよび開催案内郵送（92 校）1 回

【 参加者数 】

14 名（引率者 2 名）

【 イベントの概要 】

国立精神・神経医療研究センターにおける最先端の脳科学研究を、脳研究に関心を寄せる高校生に紹介し、脳科学および研究の魅力を伝えることを目的とした。今年度はオンサイトのみで開催した。2名の部長による最先端の脳科学研究は、高校生にもわかりやすい表現で行われ、時に聴衆の考えを問いかける双方向性のセミナーであった。ラボツアーは、参加者が希望する部署で、実験の見学や研究の紹介を行った。イベント終了後に来年度にむけてのアンケートを行った。

【 参加者の反応 】

講演では、一般の方にも分かりやすく、身近なテーマを取り上げる工夫がされており、多くの聴衆が興味深く感じたようであった。特に、下を向く聴衆がいなかったことが印象に残った。ラボ体験ツアーでは、予定時間を超過しても見学を希望する高校生が複数おり、大変な関心を持たれている様子であった。閉会後には、参加者の保護者の方から「子どもが参加後、進路について考えるようになった」との連絡があり、保護者も子どもを参加させて良かったとお礼のメッセージをいただいた。

【 開催者の総括 】

本年度は現地開催のみということで、参加人数は例年より少なかった。ただ、その分密な交流を行うことができ、講演では演者と聴衆の一体感がうまれ、ラボツアーでは各研究部で見学者に対して例年以上に丁寧な対応を行うことができた。参加者の様子やその後の反応からも、参加者の満足度の高さがうかがえる。また引率者からの希望を聞くこともでき、来年度以降の取り組みの際の改善点や最近の高校での外部活動の状況などを知ることができた。今後、子供の数は減少すると予想されているため、参加者も減少する可能性があるが、少ない人数であっても手厚く対応することで、脳科学の推進に貢献していきたい。



05 世界脳週間 2024

理化学研究所 夏休み高校生理科教室

【 開催イベント情報 】

日 時 2024年8月9日(金) 13:00~16:00
会 場 理化学研究所 脳神経科学研究センター (和光市広沢 2-1)
主 催 理化学研究所 脳神経科学研究センター
代 表 者 影山 龍一郎 (理化学研究所 脳神経科学研究センター長)

【 開催趣旨 】

高等学校の既存行事とできるだけ重ならない夏休み期間中を選び例年8月1または2週目に開催している。

【 プログラム 】

13:00~13:10 開会の挨拶

影山 龍一郎 先生 (理化学研究所 脳神経科学研究センター長)

13:15~14:15 講演 『『わたしたち』の脳科学』

小池 耕彦 先生

(理研 CBS-トヨタ連携研究センター 個体間脳ダイナミクス連携ユニット ユニットリーダー)

14:30~15:30 研究室見学

15:30~16:00 展示室(Brain Box)見学、アンケート回答

【 開催周知方法 】

- ① 理研ウェブサイト イベントページ
- ② 脳神経科学研究センターウェブサイト イベントページ
- ③ CBS Facebook
- ④ CBS X (旧 Twitter)
- ⑤ CBS Instagram
- ⑥ 夏休み高校生理科教室ポスター (近隣のSSH等に郵送)



【 参加者数 】

中学生 1名
高校生 41名 合計 42名

【 イベントの概要 】

『わたしたち』の脳科学」と題した全体講演の後、少人数のグループに分かれて研究室見学を行い、見学後アンケート記入をし、展示施設 Brain Box の見学をした。

【 参加者の反応 】

- ・普段私たちが無意識に行っているシンクロやコミュニケーションなどを脳を通して考えることができ面白かったです。
- ・人がどう感じるのか、世界とは何か、というテーマが哲学と共通していて面白かった。さらに話を聞きたかった。
- ・普段は入ることのできない研究室に入ることができ、実際の研究職のイメージがより分かりやすくなりました。進路の選択にもとても役に立ったと思います。

【 開催者の総括 】

センター長による開会の挨拶の後、小池ユニットリーダーによる講義が続きました。fMRI を使った実験装置の説明、「わたしたち」という多人数の関係が脳ではどのように処理されているのか、共感とはどういうことなのか、みなさん目を輝かせて聞いていました。その後グループに分かれ、ラボ見学では研究者へ活発に質問したり模擬実験を間近に見たり、リアルな研究現場を楽しんでいただけたのではないかと思います。



06 世界脳週間 2024

名古屋市立大学 オープンカレッジ

【 開催イベント情報 】

テーマ 脳とこころのサイエンス
日時 2024年11月1日～12月20日（全8回）
会場 名古屋市立大学（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）
主催 名古屋市立大学医学研究科
代表者 野村 洋（名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経科学研究所
認知機能病態学寄附講座）

【 開催趣旨 】

本講座では、脳がどのようにして作られ、「こころ」をどのように生み出すのか、そして認知症や発達障害がどのようなものかを説明し、「こころの健康」について理解を深めることを目指します。

【 プログラム 】

11/1 記憶と学習の脳科学
11/8 発育期の運動と情動、そしてその障害
11/15 神経疾患と認知機能障害
11/22 キズついた脳細胞を再生するためには？
11/29 認知症の克服に向けて
12/6 おとなの発達障害
12/13 新生児行動評価・観察の世界 ～自閉スペクトラム症の病態解明を視野に入れて～
12/20 脳腫瘍研究から見えてくる正常な脳発生のメカニズム

【 開催周知方法 】

名古屋市の関連施設、名古屋市立大学病院、近隣郵便局など

【 参加者数 】

72名 ※延べ人数484人

(①67人 ②62人 ③64人 ④61人 ⑤62人 ⑥63人 ⑦58人 ⑧48人)

【 イベントの概要 】

全8回の講座を通じて、記憶と学習の仕組み、発育期の情動形成、神経疾患と認知症、脳細胞の再生、認知症研究の最前線、成人の発達障害、新生児行動評価と自閉症研究、脳発生メカニズムなど、多角的な視点から「こころの健康」を解説した。各分野の専門家による講義を通じて、脳の緻密な機能とその障害について理解を深める機会を提供した。

【 参加者の反応 】

非常に好評で、講義内容への満足度が高かった。特に講義が分かりやすく興味深かったという声が多く寄せられた。多くの参加者が講師の説明や教材に対して高評価を示し、難しい内容でも具体例を交えて説明してくれた点が理解を深める助けになったと述べている。また、もっと多くの内容を聞きたかったという意見や、質疑応答の時間が充実していたとの声もあった。全体として学びが得られ、次回の講義を楽しみにしている参加者が多かった。

【 開催者の総括 】

各回とも熱心な参加者が多数参加し、特に質疑応答が非常に活発に行われたのが印象的であった。脳がどのように作られているか、どのように働いているかなど脳についての関心の高さがうかがえた。また認知症や発達障害など、身近な健康課題として注目度の高さも顕著であった。今後も市民の皆さんの知的好奇心に応える機会を継続して設け、大学の知を社会に広く還元していきたい。

令和6年度 名古屋市立大学
オープンカレッジ (第3期) **世界脳週間2024**
名古屋市立大学の教授らによる最新医学講座

脳とこころのサイエンス

主催
名古屋市立大学医学研究科
NPO法人 脳の世紀推進会議

「こころ」はどうやって生み出されるのでしょうか。私たちが考えたり、覚えたり、友達とおしゃべりして楽しんだりできるのは、脳の働きのおかげです。本講座では、脳がどのようにして作られ、「こころ」をどのように生み出すのか、そして認知症や発達障害がどのようなかを紹介し、「こころの健康」について理解を深めることを目指します。

令和6年11月1日～令和6年12月20日
毎週金曜日18:30～20:00 全8回

★ 受講料：8,000円 ★ 詳細・応募 → 

★ 募集対象：一般市民の方（学生・大学院生の聴講可）
★ 応募受付期間：9月17日（火）～10月4日（金）
★ 協力：名古屋市立大学医学研究科 脳神経科学研究所

お問い合わせ：名古屋市立大学医学研究科 推進課 オープンカレッジ担当
467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川邊1 TEL 052-853-8077

名古屋大学 オープンカレッジ

おとなの発達障害 情動 育児支援
アルツハイマー病 脳腫瘍
認知症 脳細胞の再生 記憶

 
アミロイド病変 記憶エンGRAM細胞

Nagoya City University
IBS



07 世界脳週間 2024

玉川大学 中高生脳科学教室

【 開催イベント情報 】

日 時 2024 年 11 月 17 日(日) 9:00~13:00
会 場 玉川大学 Human Brain Science Hall (町田市玉川学園 6-1-1)
《 ハイブリッド開催 》
主 催 玉川大学 脳科学研究所
代 表 者 坂上 雅道 (玉川大学 脳科学研究所 所長)

【 開催趣旨 】

都内で行われる脳の世紀イベントが比較的少なく、教員の多数が対応可能な晩秋を例年を踏襲して選定した。

【 プログラム 】

9:00~9:05 脳科学研究所長挨拶
9:05~10:00 全体講演
「心は存在しない」—不合理な「脳」の正体を科学でひもとく
毛内 拓 先生 (お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 助教、
専門は神経生理学、生物物理学、主な受賞歴 (第 37 回講談社科学出版賞、
第 33 回日本バイオイメーjing学会奨励賞など)
10:00~12:30 体験コース (オンライン 2 テーマ、対面 4 テーマから選択受講)
A 考えることと考えないこと —脳にある2つの意思決定システム— (オンライン)
B 神経活動から動物の行動を予測する —行動変容生物学入門— (オンライン)
C ヒトの脳の電気活動(脳波)をみてみよう (対面)
D 脳 MRI 実験実習 (対面)
E AI と君の脳の意思決定を比べよう —強化学習と脳の決断— (対面)
F 生体電気信号を観察して活用しよう (対面)
12:30~12:50 各コースの発表および講評
12:50~13:00 アンケートフォーム記入後に解散

【 開催周知方法 】

脳の世紀ホームページ、大学(脳科学研究所を含む)ホームページ、各学校への DM 送付、SNS 等

【参加者数】

体験学習まで参加した実数は 51 名（昨年度は 41 名）、その他に全体講演のみのオンライン参加者が 21 名（昨年は 12 名）。男女比は概ね男性:女性=1:4 で女性の参加者の比率が昨年度の 3:7 よりさらに増えた。

【イベントの概要】

本年の「中高生脳科学教室」では、開会挨拶に続き、毛内弘先生が「心は存在しない」と題した講演を行った。講演では脳科学の基礎を平易に解説し、「自我」や「心」は神経活動パターンから生じるナラティブであり、客観的実体をもたないとの見方を示した。質疑応答では科学と哲学の立場の違いをめくり刺激的な議論が交わされた。その後、参加者は 6 つの体験コースに分かれてオンラインと対面のどちらかで体験実習を行い、その後各コースの成果発表が行われ、講師陣によるまとめと修了証授与を経て閉会した。

【参加者の反応】

参加者からは「非常に楽しかった」「貴重な経験になった」との声が多く寄せられた。実験や講義を通して脳科学への興味が一層深まっただけでなく、研究者との交流や、専門的な内容をわかりやすく学べたことに感動する意見が目立った。心理学や行動経済学への関心から参加した人や、オンラインでも地方から参加できたことを喜ぶ声もあった。今後も参加を希望する声が多く、進路選択への影響を受けたとの意見もあった。

【開催者の総括】

ハイブリッド開催としたことで、地方都市在住の中高生 20 名弱の熱心な参加に繋がった。主催者としては技術的な苦労もあるが、地方の参加者からも質疑応答で「脳について考える上で、科学と哲学の立場の違いは本質的にはどこにあるのか？」などの本質的な質問もあり、首都圏のアカデミアも、地方の高校生が参加できる機会を増やしていくことの重要性を再確認した。次年度以降も、アンケート結果も参考にしながら開催したいと考える。



08 世界脳週間 2024

学芸大学附属高等学校 特別授業特別事業

【 開催イベント情報 】

日 時 2024 年 11 月 20 日(水) 13:40～14:30
会 場 学芸大学附属高等学校 (世田谷区下馬 4-1-5)
主 催 公益財団法人東京都医学総合研究所
代 表 者 後藤 啓志 (東京都医学総合研究所 副理事長)

【 開催趣旨 】

高校の授業の一環として、脳をテーマとした講演会を毎年開催しています。
開催時期については高校と相談して決めています。

【 プログラム 】

13:40～14:30

現代の様々な依存 ～やめたくてもやめられない脳のメカニズム～

井手 聡一郎 先生 (東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト 副参事研究員)

【 開催周知方法 】

授業の一環として開催しているため、外部向けの広報はしていません。

【 参加者数 】

高校3年生 30 名

【 イベントの概要 】

高校3年生を対象に生物の特別授業という位置づけで実施し、依存性物質プロジェクトの井手副参事研究員より依存に関する脳のメカニズムについて講義を行いました。

【 参加者の反応 】

有名人等の違法薬物関連の逮捕者報道が多いこともあり、「依存」に対する関心は高いようでした。特に線虫を使ったモルヒネ依存性の実験映像では、嗅覚の優れた線虫がモルヒネに見立てた物質の匂いに向かって動く様子にかなり興味を持ったようで、講師の説明を熱心に聞いていました。

【 開催者の総括 】

講師が「依存とはやめられなくなる現象のこと」であり、「やめられないものは誰にでもある」という話から、日常生活の中にある様々なやめられないことについてみんなで考えました。また、気持ちよさを感じる脳の仕組みや様々な依存性物質の脳への作用についての説明では、研究所ならではの具体的な実験結果等も紹介しながら講義を進めたので、高校生にもわかりやすかったようです。



09 世界脳週間 2024 東京科学大学講演会

【 開催イベント情報 】

日 時 2025 年 1 月 25 日(土) 16:00~18:30
会 場 オンライン開催 (Zoom)
主 催 東京科学大学 脳統合機能研究センター／
お茶の水ニューロサイエンス協会
代 表 者 高橋 英彦 (東京科学大学 脳統合機能研究センター センター長／
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野)

【 開催趣旨 】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に呼びかける世界的規模のキャンペーンです。我が国でも、全国の大学・研究機関でイベントが開催されます。東京科学大学では、この趣旨に沿って、今回は高校生を対象に、本学の新進気鋭の教授らによる講義を企画いたしました。脳科学研究の将来の担い手となる皆さまに、ぜひ積極的に参加していただければ幸いです。本学の高大連携校から意見を伺い、高校生が参加しやすいよう土曜日夕方に開催いたしました。

【 プログラム 】

16:00~16:05 開会挨拶
高橋 英彦 先生 (東京科学大学 脳統合機能研究センター センター長／
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 精神行動医科学分野 教授)
16:05~17:00 講演1
「脳神経外科医としての脳腫瘍研究から血管内治療医としての臨床研究まで」
壽美田 一貴 先生 (東京科学大学大学院医歯学総合研究科 血管内治療学分野／
東京科学大学大学院病院 血管内治療科 教授)
17:00~17:55 講演2
「神経変性疾患における共通病態の解明を目指して」
田中 ひかり 先生 (東京科学大学総合研究院 難治疾患研究所 神経病理学分野 講師)
17:55~18:25 全体討論
18:25~18:30 閉会挨拶
味岡 逸樹 先生 (東京科学大学 脳統合機能研究センター 教授)

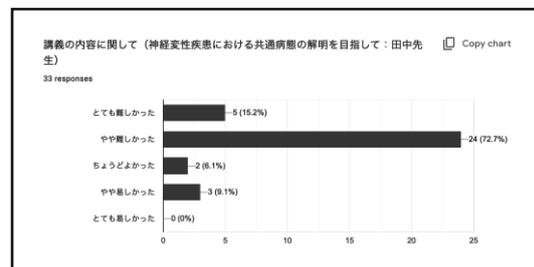
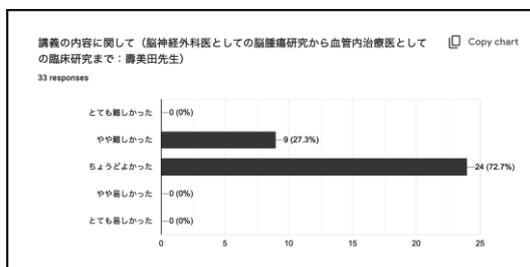
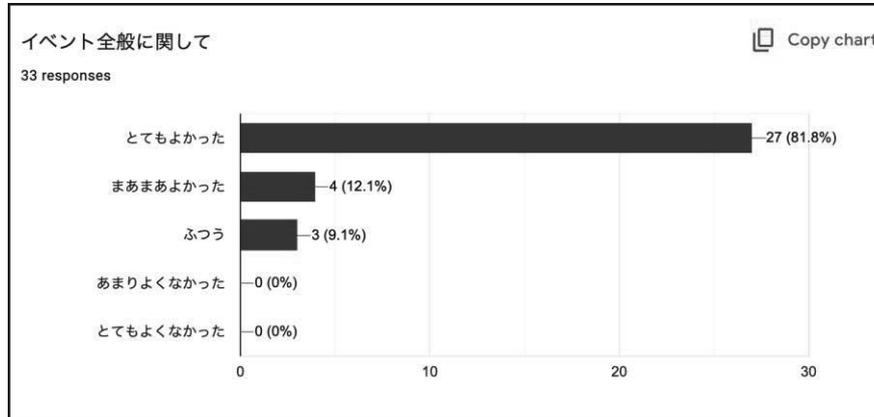
【 開催周知方法 】

- ・ 東京科学大学の HP と Facebook で案内
- ・ 東京科学大学の説明会に参加された高校の先生にメールで案内
- ・ 昨年度の参加者にメールで案内

【参加者数】

133名（内訳：高校生132名）

【参加者の反応】





国立大学法人 東京科学大学

世界脳週間 2024

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に呼びかける世界的規模のキャンペーンです。我が国でも、全国の大学・研究機関でイベントが開催されます。東京科学大学ではこの趣旨に沿って、今回は高校生を対象に、本学の教授、講師による講義を企画いたしました。脳科学研究の将来の担い手となる皆さまに、ぜひ積極的に参加していただければ幸いです。

代表：脳統合機能研究センター センター長 / 精神行動医学分野 教授 高橋 英彦

16:00-16:05 開会挨拶：
高橋 英彦 教授

16:05-17:00 講演1 「脳神経外科医としての脳腫瘍研究から血管内治療医としての臨床研究まで」
壽美田 一貴 教授
(大学院医学総合研究科 血管内治療学分野 / 大学病院 血管内治療科)

17:00-17:55 講演2 「神経変性疾患における共通病態の解明を目指して」
田中 ひかり 講師 (総合研究院 難治疾患研究所 神経病理学分野)

17:55-18:25 全体討論

18:25-18:30 閉会挨拶：味岡 逸樹 教授


 壽美田 一貴 教授


 田中 ひかり 講師

参加料無料
対象：高校生
定員：100名

参加登録はこちらから



<https://forms.gle/IDvqmEf4DIFsCP8QA>

2025.1.25(土)

16:00 - 18:30 オンライン(Zoom)開催
 [主催] 東京科学大学 総合研究院 脳統合機能研究センター
 お茶の水ニューロサイエンス協会

お申込み方法
 右記QRコードから「氏名・学校名・学年・連絡先メールアドレス」を記載して送信してください(先着順)。
 なお、学校単位での応募も受け付けております。
 担当者連絡先: 脳統合機能研究センター マテリアル神経科学分野 教授 味岡逸樹
 E-mail: Brainweek2019.cbir@gmail.com

10 世界脳週間 2024

奈良女子大学 SSHサイエンス先端講座Ⅱ

【 開催イベント情報 】

日 時 2025年3月8日(土) 13:30~16:00
会 場 奈良女子大学附属中等挙育学校 多目的ホール (奈良市東紀寺町1-60-1)
主 催 奈良女子大学附属中等挙育学校
代 表 者 片岡 達郎 (奈良女子大学附属中等挙育学校 校長)
後 援 奈良県教育委員会／奈良市教育委員会

【 開催趣旨 】

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の研究開発のプログラム「サイエンス先端講座」を、奈良県内の中学生・高校生および保護者・教職員、地域住民の方に公開することにより、科学に対する興味関心を喚起するとともに、SSHの研究開発の成果を地域に還元します。

附属中等挙育学校の年間行事に重ならない時期を選定し、毎年この時期に開催しています。

【 プログラム 】

13:30~14:30 講演会

講演タイトル：錯視いろいろ

講演者：北岡 明佳 先生 (立命館大学 総合心理学部 教授)

14:45~15:45 講演者との質疑応答

【 開催周知方法 】

本校全生徒に案内を配布し、生徒・保護者から参加希望者を募るとともに、近隣の中学・高校にチラシを配布しました。

【 参加者数 】

合計 37名 (内訳：中高生 26名、保護者 11名)

【 イベントの概要 】

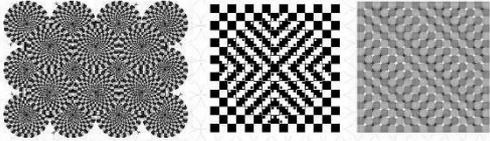
本講演「錯視いろいろ」では、錯視研究の第一人者である北岡先生による古典的な錯視の説明から始まり、先生が考案されたさまざまな錯視をスクリーンに投影しながら皆で共有体験しました。時折、錯視が生じるメカニズムや眼や脳の構造についての解説を交えながら、テンポよく話される北岡先生のご講演は、中学生から保護者、教員まで年齢を問わず楽しめる内容となりました。

また、次々と投影される錯視を見るたびに、参加者から驚きと喜びの歓声があがり、その不思議さと面白さを目の当たりにした参加者はどんどん錯視の世界に引き込まれていきました。後半の質疑応答では、生徒からの質問を中心に1時間にも及ぶ活発な意見交換ができました。その多くは錯視の内容に関するものでしたが、北岡先生は一つ一つの質問に丁寧に回答され、研究者としての考え方や姿勢も生徒たちに伝えてくださいました。また、終始楽しそうに錯視の説明をされる先生の姿を見て、研究には物事の本質を知る面白さや喜びがあることを感得しました。参加生徒や保護者にとっては、その研究分野で第一線でご活躍されている先生のお話を聞き、質疑応答を通して交流できたことは、大変良い刺激になったと思います。このような貴重な機会を与えてくださった皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

世界脳週間イベント
SSHサイエンス先端講座II

錯視いろいろ

参加費無料!



講師：北岡 明佳 氏
立命館大学 総合心理学部 教授

錯視にはたくさんの種類があります。幾何学的錯視（形の次元の錯視）をはじめ、明るさの錯視、色の錯視、運動視の錯視（実際に動く刺激の錯視と静止画が動いて見える錯視）についていろいろ紹介し、説明します。



2025年3月8日(土)午後

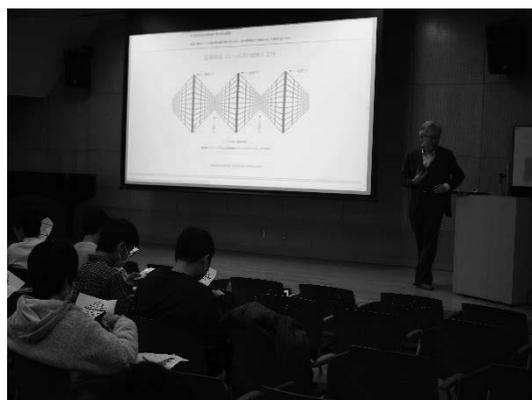
13:00~13:30 受付
13:30~16:00 講演会・質疑応答
16:00~ アンケート・閉会
(16:30頃解散予定)

対象：中・高校生、保護者、一般の方
場所：奈良女子大学中等教育学校
総合教育棟2F 多目的ホール
奈良市東紀寺町1丁目6-0-1
問い合わせ：ah15122@cc.nara-wu.ac.jp

申し込みフォームはこちら



主催：奈良女子大学附属中等教育学校
共催：NPO法人 脳の世紀推進会議
後援：奈良県教育委員会、奈良市教育委員会



11 世界脳週間 2024

東北大学 サイエンスカフェ・合同研究室ツアー

【 開催イベント情報 】

テーマ 多様な動物を対象にした世界最先端の神経科学の魅力を体験しよう
日時 2025年3月20日(土) 13:00~15:30
会場 東北大学 片平キャンパス 生命科学プロジェクト総合研究棟
(仙台市青葉区片平 2-1-1)
主催 東北大学大学院生命科学研究科
代表者 竹内 秀明 (東北大学大学院生命科学研究科 脳生命統御科学専攻
神経ネットワーク講座)

【 開催趣旨 】

東北大学大学院生命科学研究科サイエンスカフェの一環として「合同研究室ツアー」を企画した。本企画は、様々な生物を対象とした世界最先端の神経科学研究に触れる機会を提供することを目的としている。研究科内の各研究室では、第一線で活躍する教員が研究内容を紹介し、参加者との交流時間を設けた。このことにより、一般参加者が最新の研究直接触れ、研究者との対話を通じて科学の魅力を体験する場となった。特に中・高校生が参加しやすい時期を選び、東北大学での大学生活や研究生活に関する質疑応答の時間を別途設け、将来、研究者としての進路選択に資する情報提供を行った。また、ご家族での参加も歓迎し、幅広い年齢層に科学の魅力を伝える機会となった。

【 プログラム 】

参加者多数(70名)のため、A・B・C・Dの4班に分かれてラボ見学を行った。

各班の内訳は以下の通り。

A班：一般(大人)

B班：中高生

C班：小学生を含む家族連れ

D班：小学生を含む家族連れ

13:00~13:30 ラボ紹介と班分け (生命科学プロジェクト総合研究棟 1F 講義室)

13:35~13:50 ラボ訪問①

13:55~14:10 ラボ訪問②

14:15~14:30 ラボ訪問③

14:35~14:50 ラボ訪問④

14:55～15:30 A・C・D 班 → 104 講義室 全体ディスカッション・質疑応答
B 班 → 106 号室 進路相談

【 開催周知方法 】

学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティお知らせメールリングリストによる配信（NPO 法人 Natural Science）に依頼

【 参加者数 】

70 名

【 イベントの概要 】

本イベントでは第一線の研究者が直接研究内容を紹介し、参加者との交流の場を設けた。30 分ごとに 4 研究室を順次見学し、安部教授のコトリのコミュニケーション、大原准教授のマウスの記憶学習、谷本教授のハエ・クラゲ研究、竹内教授のメダカの繁殖行動に関する最新の神経科学研究に触れる機会を提供した。また、ツアー後には中高生を対象に大学院生による大学・研究生活についての質疑応答の時間を設け、科学の魅力を体験できる貴重な機会となった。

【 参加者の反応 】

参加者からは「生きた研究現場を見られて貴重だった」「多様な生物を用いた研究手法に驚いた」という感想が多く寄せられた。「ハエでそんなに色々なことがわかるんだとビックリした」「実際の動物飼育や顕微鏡で海馬の形を見ることができて嬉しかった」など具体的な体験への言及も多かった。中高生からは「将来この大学に入りたい」「夢が広がった」という声があり、保護者からは「子供の進路は『知りたい！』という気持ちを大切に見守りたい」との感想もあった。一方で「最初の段階でもう少し詳しく教えていただけると嬉しかった」という改善点も指摘された。総じて「神経科学に対する理解が深まった」「地元で東北大学があって幸せ」と好評だった。

【 開催者の総括 】

本イベントでは第一線の研究者による多様な生物（鳥類、マウス、ハエ、クラゲ、メダカ）の神経科学研究の紹介を通じて、参加者に「脳を知る」機会を提供した。特に若年層への科学啓発という点で、参加した中高生から「将来の研究者への夢を考える上で役立った」との声が多く、次世代の神経科学者育成「脳を育む」活動としても成果があった。脳研究の多様性と人工操作手法について説明し、「脳を創る」研究の一端も紹介できた。初学者からの「基礎知識の解説充実」という課題は残ったが、国際的な脳科学啓発活動の一環として有意義な取り組みとなった。

12 世界脳週間 2024

新潟大学脳研究所 「見てみようヒトの脳と心」

【 開催イベント情報 】

日 時	2025 年 3 月 26 日(水) 13:30~17:00
会 場	新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 中田記念ホール 他 (新潟市中央区旭町通 1-757)
主 催	新潟大学脳研究所
代表者	小野寺 理 (新潟大学脳研究所 所長)
後 援	新潟県教育委員会

【 開催趣旨 】

「世界脳週間」は、脳科学の重要性を広く社会に訴える世界的キャンペーンです。

日本でも、脳の最先端研究を実施している多くの研究機関が、科学研究の将来を担うべき高校生を主な対象として、わかりやすく最先端の脳研究を紹介し、脳と心の科学に興味を持ってもらおうと、研究室／実験の公開と講演を予定しています。

新潟大学脳研究所においてもこの趣旨に沿って、3 月 26 日(水)に「見てみようヒトの脳と心」という題の研究所公開と講演を企画しましたので、生徒の皆さんに積極的に参加していただければ幸いです。主な対象が高校生のため、高校の春休みに実施しています。

【 プログラム 】

■脳研究所概要説明・講演 13:30~15:00

13:30~ 脳研究所長挨拶 小野寺 理 先生 (新潟大学脳研究所 所長)

13:40~ 講演 「脳の「普通」を支えるもの」

岩倉 百合子 先生 (新潟大学脳研究所 腫瘍病態学分野 助教)

14:10~ 講演 「アルツハイマー病の遺伝子発現解析」

原 範和 先生 (新潟大学脳研究所 遺伝子機能解析学分野 特任助教)

14:40~ 質疑応答 島田 斉 先生 (新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 教授)

■研究室見学 15:30~17:00

<12 コース>

- 1) 生きている脳の細胞を見る
- 2) 細胞を光らせて見てみよう
- 3) 脳の中の宇宙を覗いてみよう
- 4) 脳の神経回路を可視化する
- 5) ゲノムの進化から脳の病気を知る
- 6) 病気を見てみよう
- 7) From bedside to bench and Back
- 8) 脳の病気に迫る研究を見てみよう

- 9) 脳を視る先端技術
- 10) 遺伝子で迫る認知症の謎
- 11) 脳の働きを解明するマウスの魅力
- 12) いきものが教える難病と老化

【開催周知方法】

- ① 新潟県内高等学校・中等教育学校に案内を送付
- ② 脳研究所ホームページに開催情報を掲載
- ③ SNS(脳研究所公式X)に投稿
- ④ 新潟大学ホームページに開催情報を掲載

【参加者数】

61名（高校生57名、大学生4名）



【イベントの概要】

所長挨拶の後、2名の研究者からアルツハイマー病遺伝子発現の解析など、最新の脳研究に関する講演を行いました。続いて、参加者は少人数のグループに分かれ、それぞれ希望する研究室で研究内容説明や実験体験など、多彩な脳研究の現場を体験しました。

【参加者の反応】

参加者への実施後アンケートより抜粋

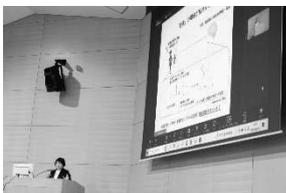
- 実際に体験・実験できてとても楽しく、興味が深まりました。
- 説明が分かりやすく、難しい内容も理解できました。
- 研究者の姿勢に感動し、自分も研究したくなりました。
- 顕微鏡観察など満足度の高い体験ができました。
- 進路選択への良い刺激となり、また参加したいとの声も多く寄せられました。

【開催者の総括】

全国の高校生・大学生が会場に参加し、そのうち60%が今回初めて大学イベントに参加しました。事前質問も活発で、イベントに期待を持って参加している方が多かったと感じます。

研究室に分かれての専門的な講義や実験実技参加でも多くの質問があり、参加者は専門的な内容にも積極的に質問し、熱心に学ぶ姿が見られました。

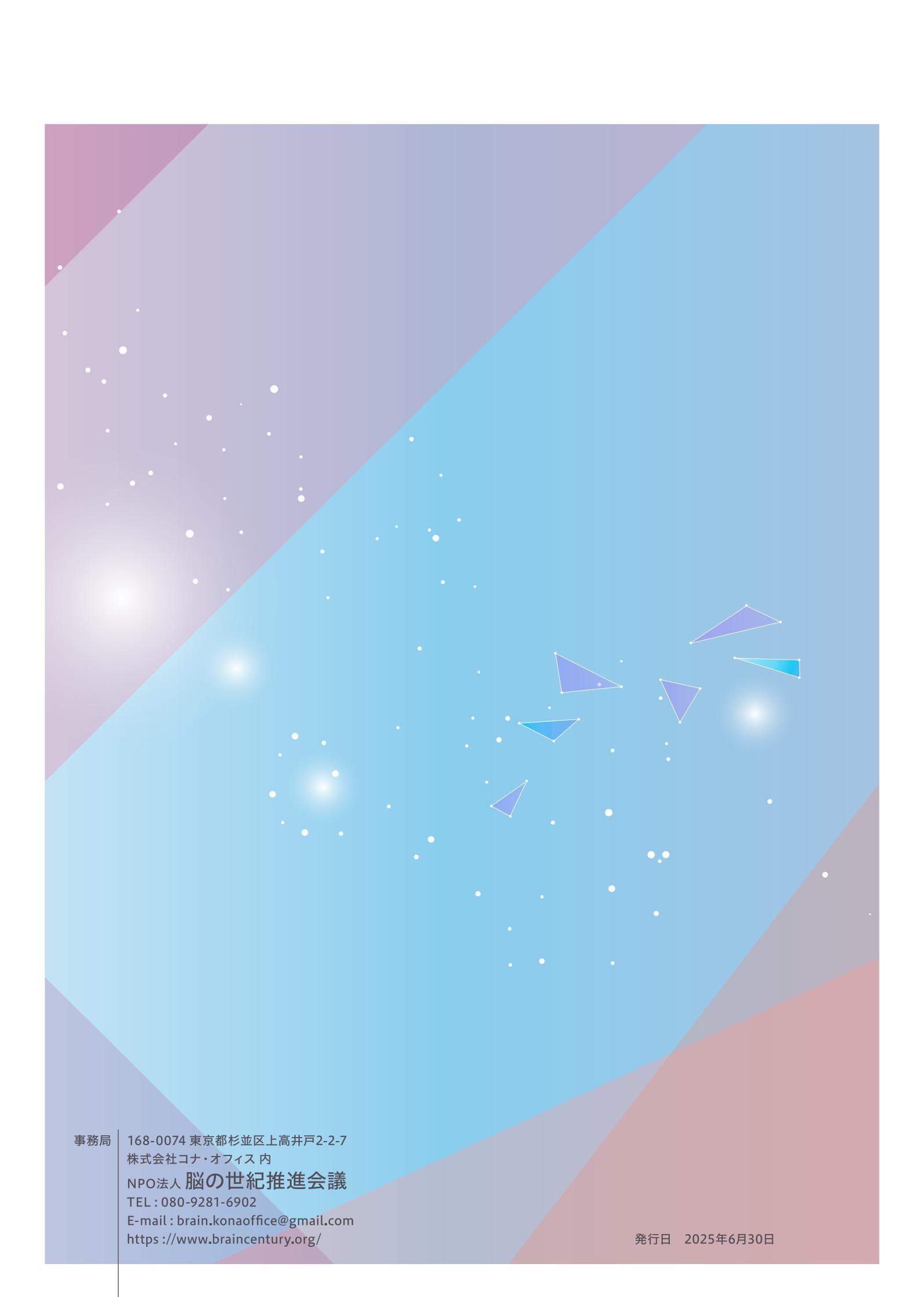
終了後のアンケートでは、講演・研究室見学ともに高い評価を得ました。「研究内容の説明や体験はもちろん、ゲーム的な要素もあり面白かったです」「様々な質問にしっかりご回答いただき、充実した時間でした」といった感想から、参加者の科学への関心を高め、知識探求の一助となったと思われま



結び 「世界脳週間 2024 を終えて」

わが国において 2000 年からスタートした「世界脳週間」行事も 24 年目を迎えました。この間、2020 年 1 月ごろより世界中に蔓延した COVID-19 のコロナ禍により 2020 年度から 2022 年度の行事は大きな影響を受け一部地域では中止或いは延期とせざるを得ませんでした。しかしながら、2024 年度は関係者の努力により種々の工夫のもと全国 12 ヶ所で多彩なイベントが開催されました。基本的には感染防止の対策を取りながら対面形式で講演会や研究室訪問やラボツアー（見学）をおこなった地区がほとんどでしたが、玉川大学では前年度と同様に対面とオンライン配信のハイブリッド形式で開催されました。多くの地区では事後アンケート調査を行い、多数の好意的反応を得ております。例えば、「脳科学という学問に興味が深まりました。研究者の姿勢に感動し、自分も研究したくなりました。進路選択への良い刺激となり、また参加したいと思います。」というコメントなど、この世界脳週間行事の意義を改めて確認し来年度以降も継続して、さらに発展させなければならないという思いを強くしました。最後に、ボランティアとして協力していただいた各地の実行委員会のメンバー、講演をしていただいた講師の先生方、種々標本のデモンストレーションやラボツアーを実施していただいた研究者の方々、及び財政的なご支援をいただいた賛助会員の方々、支援団体の皆様に厚く御礼申し上げます、結びの言葉といたします。

主催者 特定非営利活動法人「脳の世紀推進会議」 理事長
水澤 英洋

The background features a large, abstract geometric design. It is composed of several overlapping triangular and quadrilateral shapes in shades of purple, blue, and red. Scattered throughout the composition are numerous small white dots, some of which are larger and more prominent, resembling stars or data points. The overall aesthetic is clean, modern, and scientific.

事務局 | 168-0074 東京都杉並区上高井戸2-2-7
株式会社コナ・オフィス 内
NPO法人 **脳の世紀推進会議**
TEL : 080-9281-6902
E-mail : brain.konaoffice@gmail.com
<https://www.braincentury.org/>

発行日 2025年6月30日